

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	柔道 4	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	後期
対象年次	2 年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1単位		授業形態	実技			
教科書/教材	教科書（イラスト柔道 -品川区柔道会 日本柔道整復専門学校 監修-）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	宮本 功三			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的							
柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって、身体精神を鍛練修養し、其の道の神髄を体得する事である。そうして、是によって己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究極の目的である。よって、柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指していくことがねらいである。柔道の形を学びながら、正しい柔道の技の理合いと攻防を理解させていくことを目的としている。							
到達目標							
本来、柔道整復師としての柔道教育は、競技目的の柔道を教育するものではなく、昇段を目指し柔道整復師の技術のバックボーンである手技や人格の形成、心身の鍛錬を目的とし、人としての振る舞いの基本（人に対しての接し方や対話の仕方）、礼儀作法の習得が最終目標であることを理解する。基礎体力を養い、また受身を学ぶことで怪我の防止を理解する。お互いに組合って、簡単な投技（手技・腰技・足技）を学習させ、理合い、相手への思いやり等を理解し、実戦形式に近い乱取りが出来るようになることを目標とする。また、指導した「礼法」の所作を学校生活はもちろんのこと、家庭生活、社会生活の日常で実践できることを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	柔道は、精神と身体のを合理的に使用することが必要であり、単に柔道の技能だけを学ぶだけでなく、医療従事者への社会生活すべてのことを行う原理として応用できるものと考えられることを理解する。柔道を行うことによって、お互いに協力し、助け合い、譲り合い、それによって自他共に向上することが社会の発展に役立つことを理解し育成する。技術面では技の理合い、受身の仕方や必要性、相手をかばう方法について、精神面では、相手への思いやりや感謝の心を理解する。						
注意点	柔道は、相手を投げ、抑え込み、首を絞め、関節を極める技を用いて攻防を行うので、常に危険と隣り合わせである。柔道の攻防の際に生じる危険な状態をよく理解し、未然にそれを回避する能力をつけることを意識する。危険と隣り合わせである授業なだけに、意味のない授業中の私語や授業態度は厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を認めない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	0%					
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	100%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	0%					
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1 回	受身の復習、投の技（手技）の復習		受身、投の形（手技）の総復習ができる				
2 回	投の形（腰技）の演舞・説明		投の形（腰技）を披露・説明し、腰技を理解する				
3 回	投の形（腰技）①		右の浮腰できる				
4 回	投の形（腰技）②		左の浮腰できる				
5 回	投の形（腰技）③		左右の浮腰を一連の流れでできる				
6 回	投の形（腰技）④		右の払腰できる				
7 回	投の形（腰技）⑤		左の払腰できる				
8 回	1 回から 7 回の振り返り		投の形の手技（浮腰・払腰）ができる				
9 回	投の形（腰技）⑥		左右の払腰を一連の流れでできる				
1 0 回	投の形（腰技）⑦		右の釣込腰できる				
1 1 回	投の形（腰技）⑧		左の釣込腰できる				
1 2 回	投の形（腰技）⑨		左右の釣込腰を一連の流れでできる				
1 3 回	投の形（腰技）⑩		投の形の腰技（浮腰・払腰・釣込腰）ができる				
1 4 回	9 回から 1 3 回の振り返り		投の形の手技・腰技が一連の流れでできる				
1 5 回	半期の総括		全体のまとめ				